



トピックス

- 有機農業の技術以前と技術以降
- 2009年度の活動予定
- 2008年度の活動報告

www.ofrc.net

特定非営利活動法人
有機農業技術会議 事務局
発行責任者：藤田 正雄

有機農業の技術以前と技術以降

技術屋は消耗品なのだろうか。いや、確かにそうなのかもしれない。新しいパラダイムを創造しながら、技術をまとめて一つの体系を構築した時に、その技術はすでに新しい技術にとってかわられるべき宿命を背負っている。だが、新しいパラダイムなどはそう簡単に構築できるものではない。だとすればやはり消耗品としか言いようがない。ある意味、運動家と称する人たちのしびとさと比較すれば、正直なところ最初から比較すること自体無理なのかもしれない。というか、運動家とは明確な一線を画すしかないだろう。しょせん技術屋とはその程度の存在でしかない。有機農業技術会議のデビューであった滋賀県での第1回大会で、「運動は前後左右に、いや言を左右にして自由闊達に言い添えることができるが、技術は前に進むしかない。技術の後退は敗北を意味する」と私が述べたことは、そのまま現在でも該当する。

ところで有機農業技術なるものを俯瞰してみると、驚くべきことに民間技術としての伝承がほとんどであった。そのために「学」としては顧みられることはなく、したがってアカデミズムの支援を受けられることはなかった。それはすなわち、アカデミズムからの説明を拒否されたことに等しい。結果的にそれが有機農業を一般に理解させることなく、誤解に輪をかけて誤解を生じることにつながって、現在に至っている。

以上の述懐は、決して碎みで言っているわけではない。それよりも、「有機農業って江戸時代に戻るわけ？」と、あっけらかんと言われるように、アカデミズム側からのさらなる曲解を生じさせることにつながっている。

いったい、この矛盾と悪循環をどうすれば解消できるのだろうか。それは普及・啓発の運動論だけでは決して充分なことができるわけではない。それよりも民間技術としての、技術的な熟成を待たねばならないよう

代表理事 西村和雄

に思う。だが、果たしてそれは可能だろうか？

一つの可能性は、技術というものがアカデミズムに支配されていると勝手に想いこんでいる風潮から脱却するしかないだろう。それはある意味アカデミズムの拒絶につながるかもしれない。しかし私は決してそうは思っていない。逆説的だが、むしろアカデミズムだけが、技術の保証だと思っていることが、有機農業の弱点だと思っている。

たとえば有機農業では、いわゆる「土づくり」というのが大きな目標となる。そのための重要な一つに、圃場生態系に豊かな生物多様性を作り出すということがある。だが、その一方で土壌分析から得られる数値を土壌養分の過不足の指標として参考にする。

残念なのは、土壌分析値から得られる数値は、土壌に賦存する無機養分の現在量であり、決して生物の豊かさ指標とは相いれないものなのである。それでいて、分析値を信頼するしかないという矛盾である。

「分析しか情報はないじゃないか」と反論が飛んでくるだろう。だが、確かに矛盾は存在する。それこそがアカデミズムにたいする依存心でしかない私は思うのだ。この矛盾を自ら解決するには、日本有機農業研究会発足時に幹事を務められた露木裕喜夫氏がいみじくも言ったように、自然観察しかない。圃場における生態系の豊かさ指標とは、その土が作物の健全な生育をどれだけ保障し得るものなのか？ それしかないであろう。「土壌の健全性」それこそが作物の健全性を保証し得る、ある意味目に見えない保証なのである。民間技術としての出自を、自ら認めるのであれば、もう一度技術以前としての、アナログデータであるべき「土の健康・作物の健康」に頼るしかない。それを理解するには、鋭い観察力と洞察力とが必要とされるであろう。そうなればこそ、技術屋は消耗品だとは言えなくなるのである。

2009年度の活動予定

公開セミナーは、新潟県にて「水田の抑草技術を考える」、高知県にて「有機農業の施設栽培を考える」の開催を予定しています（表1）。総合研究大会は、8月に熊本県での開催を予定しています。詳細やその他の活動については随時ウェブサイトにてお知らせいたします。

表1 有機農業技術会議 2009年度の活動予定（4月16日現在）

7月	第6回公開セミナー「水田の抑草技術を考える」	（新潟県）
8月	「第4回有機農業技術総合研究大会」	（熊本県）
11月	第7回公開セミナー「有機農業の施設栽培を考える」	（高知県）

また、有機農業実施者の増加をはかるために、民間の有機農業推進団体および地方自治体などと協力しながら有機農業の実施希望者のため相談窓口を開設するとともに、各地で相談会・交流会を開催します。全国農業会議所の全国新規就農相談センターが主催する「新・農業人フェア」にも参加し、新規参入希望者の

相談に応じます。そのためにも、有機農業技術会議では、参入促進事業で開設したポータルサイト「有機農業をはじめよう」(www.yuki-hajimeru.or.jp)を通じて、関連情報を随時お知らせしていくとともに、有機農業の研修先や有機農業を実施している地域のさまざまな事例を紹介していきたいと考えています。

2008年度の活動報告

2008年度は国の有機農業総合支援対策事業が始まり、採択された45の地域有機農業推進事業(モデルタウン)の推進協議会が中心となって、各地で有機農業推進へのさまざまな取り組みが始まりました。農研機構や地方自治体の試験研究機関では、有機農業の実施事例調査や試験研究が開始されました。また、農業改良普及員の有機農業の研修が始まり、農業改良普及センターに有機農業の担当者が置かれるところも出てきました。山形県と千葉県農業大学校では、有機農業の講座が開催されました。このほか、社団法人全国農業改良普及支援協会の機関誌「技術と普及」08年9月号で有機農業の特集が組まれるなど、有機農業推進の活動は、広がりを見せています。

有機農業技術会議も、有機農業推進団体支援事業(参入促進事業)の補助金の交付を受けて、有機農業推進団体の協力を得ながら、有機農業の実施者を増加させるための事業も進めました。なかでも2008年度は、7月に福島県郡山市にて第4回公開セミナー「有機農業の基本を考える」を、10月に島根県浜田市にて第5回公開セミナー「有機農業大学講座in島根・浜田」と埼玉県比企郡にて「有機農業フォーラムin小川町」を、12月に秋

田県秋田市にて「第3回有機農業技術総合研究大会」を開催しました。07年より実施している内容に相談会、交流会、現地見学会を加えるとともに、各地の有機農業推進団体と協働して、有機農業への新規および転換者を増加する取り組みを実施しました。これらを通して、各地に地域の特徴を活かした栽培方法の工夫と販路の開拓をされ、有機農業を続けてこられている多くの方の取り組みを紹介することができました。なお、公開セミナーなどの資料集はウェブサイト(www.ofrc.net)にて公開するとともに、有料でお分けしています。

12月には「有機農業研究者会議2008」を開催し、農研機構、15道府県農業試験場、大学および民間研究者が集まりました。09年度より国の省資源型農業の生産技術体系の確立(有機農業型)のための委託プロジェクト研究が実施されます。この時期に有機農業に携わる研究者が一同に介して、有機農業の研究について情報交流が行ったことは今後の試験研究にとっても意義のあることと考えています。09年度も関係機関と連携を取りながら開催していきたいと考えています。

表2 有機農業技術会議2008年度の主な活動

7月3-4日	第4回公開セミナー「有機農業の基本を考える」(福島県郡山市)	200名参加
10月7-8日	第5回公開セミナー「有機農業大学講座in島根・浜田」(島根県浜田市)	240名参加
10月25-26日	「有機農業フォーラムin小川町」(埼玉県比企郡)	180名参加
12月5日	「第3回有機農業技術総合研究大会」(秋田県秋田市)	150名参加
12月15-16日	「有機農業研究者会議2008」(静岡県伊豆の国市)	70名参加

この他、共催・後援等で、6月29日「有機農業宣言東京集会」(東京都千代田区)、8月20-21日水稲-現地検討会(新潟県三条市)、10月4-5日「北海道有機農産物フェア～食べ物は生命。北海道命の収穫祭～」(北海道江別市)、10月19日「種まきライブー土と平和の祭典2008」(東京都千代田区日比谷公園)、11月2日「オーガニックフェスタかごしま」(鹿児島県鹿児島市)、11月5日「あいち有機農業フェスタ2008」(愛知県名古屋)、1月24-25日「第4回農を変えたい!東北集会inふくしま」(福島県福島市)、2月27-28日「農を変えたい!全国集会in今治」、などに企画参加いたしました。

賛助会員募集のご案内

有機農業技術会議では、当会議の趣旨に賛同してくださる方を対象に賛助会員制度を設けております。会員の方々へは、電子メールによる機関誌や研究会などのご案内、研究会・研修会などへの割引参加、総合研究会への参加、ご意見・ご要望の反映などのサービスもあります。この機会に是非お申込みください。

お申し込みは技術会議事務局にご連絡ください。また当会議ウェブサイトwww.ofrc.netのホーム→入会案内からも用紙がダウンロードできます。皆様のご入会をお待ちしております。

NPO法人

有機農業技術会議事務局

〒390-1401

長野県東筑摩郡波田町5632

(財)自然農法国際研究

開発センター

農業試験場内

FAX:0263-92-6808

E-mail: office@ofrc.net

Website: www.ofrc.net